

授業概要

我々は日常、歩行や自転車・自動車などの乗り物を用いて、目的の場所へ安全に移動しようと行動しますが、交通事故やトラブルはなかなか無くなりません。なぜなのでしょう？ 交通心理学は、交通場面における人間の行動や心理特性を明らかにして、交通事故やトラブルの発生要因を分析し、安全かつ快適な交通環境の構築を実現することを目的とする研究領域です。本授業では、自動車を中心とした事故の原因や防止策について学び、関連する歩行者や運転者の心理特徴について理解を深めていただきます。交通に関わる様々な現場で、実際に発生した事例や、交通安全のための具体的取り組みについても随時紹介しながら、心理学がどのように貢献をしているかを考えていきます。これらを通して、自己理解及び他者、社会への理解を深めるとともに、人々の福祉のために心理学の知識と技能を活かす倫理観を身につけることを目的としています。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：交通心理学とは
第 2 回	交通心理学の歴史と考え方
第 3 回	交通事故の原因
第 4 回	事故者の心理特性
第 5 回	行動と注意
第 6 回	バザード知覚
第 7 回	リスクテイキング
第 8 回	事故と個人差
第 9 回	歩行者と自転車運転者
第 10 回	初心運転者
第 11 回	高齢運転者
第 12 回	交通場面でのコミュニケーション
第 13 回	運転者教育
第 14 回	交通安全教育
第 15 回	交通システムと心理
第 16 回	まとめ：期末レポートの提出

到達目標

- 交通心理学における基礎的な知識を学び、現状の問題点について理解し、説明することができる。
- 交通環境で起こり得る日常のさまざまな事態に気づき、安全かつ快適な交通環境構築のために交通心理学の果たす役割・手法について考察できる。

履修上の注意

- 遅刻・欠席はしないこと。授業での演習や討論に積極的に参加すること。
- 交通場面における心理現象について、自ら関連文献を調べ、理解を深めようと取り組むこと。
- レポート作成・提出にはパソコンの使用を求めます

予習・復習

- 授業の進捗状況に合わせて配布資料などを参考に予習および復習を行うこと。
- 授業中に質問し、意見を求めるなどして、予習復習の確認をおこなうことがある。

評価方法

授業における課題（60%）と期末レポート（40%）から総合的に評価する。

テキスト

資料を配布するためテキストは指定しない。授業内で、参考書を適宜紹介する。